



椎木 学議員

なぜ今、分庁方式か

生じた問題点はその都度改善

問 3町合併にあたり、2年間の協議を要して町名は大山町、本所は名和、大山・中山は完結型の総合支所となった。この3点は、合併後の1期4年間に限り変えがたい基本

的条件と認識している。町報12月号に組織の見直し案として20年度からの分庁方式が提案されて

いるが、総合窓口課の業務、権限、職員数が説明不足である。

また、3カ月間では、町民への周知、合意形成が不可能に思える。

町長の見解を質したい。

答

(山口町長)

合併協議での合意事項は十分認識しているが、

合併後の任期4年間の中で「変えがたい基本的条件」があるとは思わない。

新しいまちづくりのために、住民の皆さんと作りあげた計画をいかに継続的に新しい町として取り組み、活性化ある大山町にしていくかが、私の使命と想っている。

町政運営の中で、総合支所方式は種々の問題が生じている。その都度改善し、継続的な持続的な取り組みが、私の責任と考える。

総合窓口課は、どこまでの役割を持たせるのか、来春の職員体制調整の中で、どの程度の員数配置ができるのか、今後検討したい。

町民への周知と合意形成は、区長会、中海テレビ3チャンネル放映や住民説明会等で合意を得て4月1日から実施したい。

分庁方式が提案されているふたつの支所



中山支所



大山支所

地域を支える人づくり

地域自治は重要なテーマ



遠藤幸子議員

問

高齢化が進む中で、地域のコミュニティが必要となる。コミュニティの潤滑油的な役割を果たしているのが、愛育委員会等の組織と想うが、町長の考えは。

また、今後地域自治を進める上で、地域を支える人づくりが重要となると思うが、現在地域で活



愛育委員会の活動状況

答

(山口町長)

動している団体等をどのように考えているか。

地域で活動している愛育委員会ははじめ、地域の健康活動に支援いただいている人たちと連携を取りながら、今後も町の福祉活動にご協力いただきたいと考えている。

高齢化が進み、限界集落等の言葉が使われる現

在、地域自治が重要なテーマとなってきた。これをどう進めていくのか検討を重ねている。

各集落の現状がどうか、区長さんにアンケートをお願いし集計中である。

地域で活動している団体等についても、地域を支える重要な役割を担っていただけのもので、大きな期待を寄せている。